

High Line Wakabayashi はいらいん若林

みんなでここさ

入らいん!



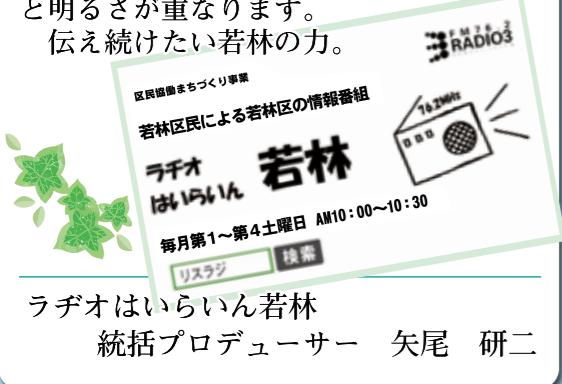
若林区まちづくり協議会会報 2021.3.1 Vol.24

集か24号大震災の感想です。震災では、災が発生するときに、多くの人が避難しました。しかし、多くの人が生き残りました。この震災は、多くの人々に大きな影響を与えたものです。

私たちの番組は、震災後も休みなく、若林の復興の様子を放送し続けてきました。

津波被災の沿岸部に入れたのは2ヶ月後。田園には流された車が積み重なったまま。収録で訪れた農家の壁には泥水の線が。これからどうするか、熱く語る姿には希望が、強さがありました。2019年秋に開通した東部復興道路からの眺め。あの泥水一色だった田園が今や黄金色の稲穂。現実となった復興風景に、農家の強さと明るさが重なります。

伝え続けたい若林の力。



ラヂオはいらいん若林

統括プロデューサー 矢尾 研二



ながるよ。」との温かい励ましを受け、開催を決意しました。「鎮魂」と「復興」をおまつりの共通コンセプトに設定し、区民が寄り添える祭りを目指しました。

これからも、あの震災を忘れずに、そして、人との絆を信じて、明日に向かって楽しめるふるさとまつりを開催して欲しいと願っています。

平成23年度若林区民ふるさとまつり
実行委員長 西條 芳郎



若林区
まちづくり協議会
会長 早坂 隆

あの日を忘れず
明日を信じる

東日本大震災から10年

令和
3年度

若林区まちづくり協議会の行事予定

| | | | |
|-----------------------|-----------------------------------|---|---|
| 4・5月 役員会・総会 | 7月 (第1土曜) 若林区 合唱のつどい | 8~11月 若林区 スポ・レク・フェスタ | 10月 (第3日曜) 若林区民 ふるさとまつり |
| 2月 若林区 まちづくり交流会 | 3月 会報 「はいらいん若林」 vol.25発行 | 7~翌3月 76.2MHz ラジオ3にて第1~4土曜日の午前10時から 「ラヂオはいらいん若林」放送 | インターネットで放送を聴くこともできます(リスラジまたはラジオ3ホームページ) |

若林区まちづくり協議会

----- 事務局 -----
若林区役所まちづくり推進課内
〒984-8601 若林区保春院前丁3-1
TEL 282-1111

会報プロジェクト メンバー

リーダー 清勝西志子
水又條原
公久喜
七郎
雄子
恵子
正子
まゆみ
正子
原倉

編集後記

3・11東日本大震災から10年の歳月がたちました。多くの温かい支援・義援に感謝しつつも、目に見えてきた復興はまだ道半ばです。さらなる住みよい魅力あるまちづくりを目指して前進する若林区を、「はいらいん」誌でお伝え致します。
(会報プロジェクトリーダー 清水 記)

会報の愛称
「はいらいん若林」とは

仙台弁の「入らいん(お入りください)」に英語のhigh(ハイ・高い)とline(ライン・路線、進路などの意)とを
かさねあわせた造語です。温かさとより高いレベルをめざそうという気持ちが込められています。

いつでも 住み慣れた地域で暮らし続けたい
認定特定非営利活動法人あかねグループ

若者とともに、復興から地域おこしへ
一般社団法人ReRoots

一般社団法人
ReRoots(リルーツ)は、仙台市若林区沿岸部の津波被災地で農業と農村の再生を目指す、学生ボランティア団体です。仙台市内5大学から約50名の学生が参加しています。



若林区遠見塚一丁目に拠点を持つ「あかねグループ」は、1982年に10人の主婦からなる任意グループでスタートしました。テーマとして『いつでも住み慣れた地域で暮らし続けたい』を掲げ、介護・配食サービスなど、地域に根を下ろした福祉活動を38年間継続しています。

2011年の東日本大震災は、あかねグループにとっても大変な出来事でした。当日、配食サービスの厨房では、棚から物が落ちたり、重量のある厨房機器がずれたり、配膳したものがひっくり返ったりしましたが、待っている人たちになんとか届けたいと、自転車や徒歩で、男性の方々も参加して、149食を配食したそうです。次の日、会員は自宅も大変なところ集まってきて、ガスが出ない中、一斗缶を切って作ったコンロ(写真)で調理を続けました。それだけでなく、通行人に豚汁などの炊き出しも行ったそうです。

介護サービスについても、ケアマネジャーや介護ヘルパーが、高齢者の安全確認のための活動を早速開始しました。数日配食出来ない日があって利用者が困ったとき、悲しい思いをしましたが、反面、地域の方々から野菜などの支援を頂いたときは本当にうれしく、人の心の大切さを感じたそうです。

「震災を経験し、絆の強さを感じ、組織としてより強くなったような気がします。震災の反省を受けて体制作りなども考えてきました。現在のコロナ感染症も災害としてとらえ、コロナ禍でも、地域の人たちが、途切れることのない普通の生活が送れるようなサービスを目指しています。」と、理事長の清水福子さんは語ってくれました。



(西條 記)

始めの3年間は復旧支援としてのガレキ撤去に取り組み、2014年から現在までは復興支援を行っています。農業面では、学生の野菜作り、野菜の移動販売などを行い、コミュニティ面では、地域行事の再生、交流人口を拡大する「おいもプロジェクト」などを実施してきました。

その結果、新規就農者を5名輩出し、うち2名は若林区に就農しています。また、昨年6月にはスイートポテト専門店「仙台いも工房りるぽて」を沖野地区にオープンできました。

いよいよ今年から地域おこし段階へと移行します。重要な地域課題である農業の後継者育成と移住に正面から取り組む段階です。農村塾を作り、農業と農村の担い手を育成する計画です。

これから10年かけて、「ひなびた持続できる農村」として存続できるよう、若林区らしいまちづくりを進めていきたいと思います。

代表 広瀬 剛史

※詳しくは「市政だより」「若林区ホームページ」等でご案内いたします。

あの日、あの時、

2011年
3月11日
マグニチュード
9.0

14:46 若林区 震度6弱
14:49 大津波警報発令

○3.11の海岸公園冒険広場



津波到達時刻で
止まつたままの荒浜小学校の時計
(写真提供:仙台市)

4月7日
M7.1の余震



津波による被害を受けましたが、直後から活動を再開し、復興公営住宅や高齢者世帯等に新鮮な野菜を供給し続けてきました。築いてきた絆を無駄にしたくない、被災した生産者や消費者を元気づけたい、の一心でした。スープのおもてなしが好評のおしゃべりサロンは、今やお年寄りたちの大交流の場、支え合いや見守りの場であり、恒例の伝統行事の開催は、次世代へのかけはしにもなっています。

(一般社団法人産直広場ぐるぐる 森 曜美)

地元住民と公園職員は、展望台付近(高さ15m)に避難。左右の防潮林が、バリバリともすごい音で流されていました。地面に「5ニン ヒナン ブジ」と書き、自衛隊のヘリコプターに救出されました。この場所が「避難の丘」のモデルとなりました。

子どもたちの心のケア

海岸公園は被害が大きく、7年4ヶ月もの間、閉園を余儀なくされました。閉園中も、心のケアやコミュニティづくりを目指し、プレーカー(写真右)で仮設住宅・公園などを巡回する遊び場活動に取り組んできました。これからも、沿岸部が持つたくさんの魅力を、遊びを通して伝えていきたいと思っています。

(認定NPO法人冒險あそび場—せんだい・みやぎネットワーク 根本 晴生)

2021年
東六郷コミュニティ広場
オープン

旧東六郷小学校の跡地に整備し、地域の皆さんのが主体となり、グラウンドの貸出しや日常的な維持・管理を行います。



ひがろく桜プロジェクト

(ひがろく=東六郷の愛称)
旧東六郷小学校に残った1本の桜は、樹勢が弱ったため接ぎ木をして育て、2021年2月に広場へ植樹されました。

奇跡の井土メダカ

津波のために絶滅したと思われていた固有の遺伝子を持つメダカ。震災直前に研究のため大学で採取していたものを、大勢の市民が里親になって増やしています。

防災集団移転跡地の利活用

住めなくなってしまったけれど、海の風に吹かれたり、かつての農漁村の暮らしを語り合ったり……。

心と心をつなぎ合える場所となりますように!

2021年

荒浜に最後の
「避難の丘」完成

そして、これから

(構成:米倉)

高齢被災者に寄り添って

津波による被害を受けましたが、直後から活動を再開し、復興公営住宅や高齢者世帯等に新鮮な野菜を供給し続けてきました。築いてきた絆を無駄にしたくない、被災した生産者や消費者を元気づけたい、の一心でした。スープのおもてなしが好評のおしゃべりサロンは、今やお年寄りたちの大交流の場、支え合いや見守りの場であり、恒例の伝統行事の開催は、次世代へのかけはしにもなっています。

(一般社団法人産直広場ぐるぐる 森 曜美)

避難所から仮設住宅へ 2011年7月 区内の全避難所閉鎖完了



仮設住宅から恒久住宅へ

区内に8ヶ所あったプレハブ
仮設住宅は2017年3月に解体が完了



○現在の海岸公園冒険広場



2013年

震災がれき処理完了

忘れない、伝えたい

2016年 2月 せんだい3.11メモリアル交流館全館オープン
2016年 3月 荒浜小学校閉校(七郷小学校に統合)
2016年 4月 仙台市農業園芸センターリニューアルオープン
2017年 3月 東六郷小学校閉校(六郷小学校に統合)
2017年 4月 震災遺構 仙台市立荒浜小学校公開
2018年 7月 海岸公園の3施設(センターハウス、馬術場、冒険広場)再開



2017年

2018年



ふるさとに集う

2014年

2016年

2015年

地下鉄東西線開業



復興のシンボル わらアート

2015年の地下鉄東西線開通記念行事として、若林区まちづくり協議会わらアート実行委員会とReRootsの若者が協力して、被災した若林区の水田から刈り取られたわらで高さ約5メートルのマンモスを作り、荒井駅前に展示したのが始まりです。

六郷東部地区に上げる 鎮魂の花火

「状況は変わっても、ここはかけがえのない私の故郷」、そんな想いを持っている人たちと共に活動し、交流会や夏祭りも開催。恒例の、冬空に上げる花火は鎮魂の花火。懐かしい顔も揃い、たくさんの人の笑顔が咲きます。「これからもずっと続けていってほしい」は、みんなからの一番多い声です。今後も六郷東部地区の賑わいと再生を願い、活動を続けていきたいと思っています。

(わたしのふるさとプロジェクト 代表 大内 文春)

思いをこめて、風船を荒浜の空へ

東日本大震災によって壊滅的な被害を受けた荒浜地区において、荒浜小学校卒業生、七郷小中学校卒業生が中心となり、毎年3月11日に、「ふるさとに思い馳せる時間と場所を作ること」を目的に開催しています。コンサートや地域行事(灯籠流し等)の再興をきっかけに、海辺への恐怖を抱く人、風景が一変した故郷に戻る機会がない人が、この地を訪れることができるとよいと考えています。

(HOPE FOR project 代表 高山 智行)



鎮魂の花火